



PDA 即興型英語ディベート東北交流大会 2022

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2022年11月13日(日) 9:00~13:00

会場：オンライン (Zoom)

参加校：6校、10チーム (秋田県立角館高等学校、秋田県立本荘高等学校、山形県立山形東高等学校、福島県立安積高等学校、青森県立青森高等学校、岡山県立岡山朝日高等学校)

参加者：生徒14名、教員3名

スタッフ：東京外国語大学、北海道教育大学、秋田大学、PDA認定教育ジャッジ



一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA) 代表理事中川智皓より、「他県の高校生と即興型英語ディベートをするのは初めて、という生徒さんはどのくらいいらっしゃいますか。」との問いかけに、参加者ほぼ全員の手が挙がりました。「画面越しにはありますが、他県の高校生とのディベートに加えて、ディベートが終わった後の交流タイムもぜひ楽しんでください。」と挨拶があり、第一回東北公立高校交流大会が開会しました。続けて、参加校の紹介、ジャッジの紹介、ルールの確認を行い、緊張をほぐす意味も兼ねて、POI(Point of Information)の練習を参加者全員で行いました。



PDA 中川代表による挨拶

全員でPOIの練習

スピーチの評価基準 (内容・表現)を確認し、早速第1ラウンドの論題「**Students should be allowed to work on different materials during class.** (生徒は、授業中に別の作業 (内職) することを許されるべきだ。)」が発表されました。論題が導入されたらどんなメリット/デメリットが、誰に、どのように生じるのかについて、習熟度の高い生徒とそうでない生徒に起こりそうな影響や、先生からの視点、生徒個人の学力やクラス

全体の理解度がどう変化するのか、様々な角度から論題を肯定/否定する議論が飛び交います。POI も活発に交わされ、大学進学や就職にプラスの影響を及ぼすのは自分たちの世界であると、双方が理由や具体例を一生懸命絞り出し、白熱したラウンドとなりました。

ラウンド後は、対戦相手と画面越しに握手をします。ジャッジコメントを待つ間、生徒たちはラウンド1が終わりホッとした笑顔で、ディベート練習の話題から、修学旅行や自分たちの県のご当地観光情報の紹介、部活動などについてお互いに質問し合い、他県の同年代の仲間と親睦を深めます。その後、PDA ジャッジから (1) 勝敗 (2) 勝敗の理由 (3) 1人1人への個人コメント (良かった点と次の第2ラウンドにいかすことのできる改善点など) が述べられました。自分以外の他のスピーカーへのジャッジアドバイスもメモをとる生徒が多く、学ぶ意欲の高さがジャッジにも伝わってきます。



ディベート後、対戦相手に感謝の気持ちを込めてエア握手

続く第2ラウンドの論題は、「**Government should restrict the time spent on online games.** (国は、オンラインゲームの利用時間を規制すべきである。)」でした。肯定側は、現状の弊害について、勉強時間の減少や健康被害を説明した上で、規制の必要性を訴え、否定側は、現状について異なる角度から分析し、オンラインゲームを通して子どもが得られるメリットや、子どもの権利について述べ、規制は不要であり、また不合理でもあることをスピーチしました。お互いのポイントにかみ合った反論や再反論が続き、心身への健康被害、学力への影響、権利に加えて、プロゲーマーや経済メリットまで言及されるなど、議論が深まりました。また、第1ラウンドでのジャッジアドバイスを早速スピーチの内容や表現にいかす生徒ばかりで、その成長スピードに驚かされます。



正式なポーズでPOI!

休憩をはさみ、ジャッジが高く評価した生徒 6 名によるエキシビジョンディベートが始まりました。論題「Grade-skipping should be introduced in compulsory education. (義務教育での飛び級を導入すべきである。)」が発表され、聴衆全員がジャッジであることも告げられます。たくさんの生徒が見守る中、堂々と落ち着いたスピーチで、かつ積極的に POI に立ち、議論を深めようとするやり取りの多い素晴らしいラウンドになりました。肯定側は、生徒の学習意欲の向上と先生の負担軽減という切り口で、生徒と先生それぞれに生じる飛び級のメリットを、また公私におけるプラスの変化まで議論を深め、自分たちが用意したメリットを強化します。否定側も、現状分析をした上で、論題導入後に生じるデメリットの深刻性について、不公平の助長や同世代との関係構築が希薄になる点を、身近な具体例を分かりやすく添えて訴えます。お互いに争点をふまえた反論や再構築が多く述べられました。

ジャッジとしてディベートに参加した生徒たちと教員の挙手投票により、肯定側の勝利となりました。エキシビジョンマッチのチェアパーソンを務めてくださった PDA 認定教育ジャッジ資格をお持ちの高橋輝享先生（秋田県教育庁高校教育課）より、「論理的なスピーチ構成で、分かりやすい具体例まで描写できていた。」「また、本交流大会での実践を通して、ジャッジのコメントを吸収して、ラウンドごとに生徒達が成長しているのも素晴らしい。」とのコメントをいただきました。



エキシビジョンディベートの様子

閉会式では、表彰が行われ、個人賞で表彰を受けた生徒より、「やったことのなかった即興型英語ディベートの大会に参加し、自分がこれまで知っていた世界は狭かったことが分かりました。とても楽しかったです」、「他県のレベルの高い対戦相手とディベートができて、またディベートが終わった後の交流もあり良かったです。ディベートは難しかったけれど、仲間と協力して白熱した議論を交わせました」などと感想が述べられました。

「また会いましょう！楽しかったです！ありがとうございました！」という生徒たちと教員の皆さんの笑顔で、東北交流大会 2022 は閉会しました。

【表彰】

〈エキシビジョンディベータ賞〉

- ・ PM _____さん 岡山朝日高校
- ・ LO _____さん 本荘高校 B
- ・ MG _____さん 角館高校 A
- ・ MO _____さん 本荘高校 B
- ・ LOR _____さん 本荘高校 A
- ・ PMR _____さん 山形東高校 B



エキシビジョンディベータ賞

〈チーム賞〉

- ・ 1位 青森高等学校 A
- ・ 2位 本荘高等学校 A
- ・ 3位 本荘高等学校 B
- ・ 4位 角館高等学校
- ・ 5位 山形東高等学校 B
- ・ 5位 安積高等学校 B



1位 青森 A



2位 本荘 A



3位 本荘 B



4位 角館



5位 山形東 B



5位 安積 B

〈ベストディベーター賞〉

- _____さん (本荘高校 A) ★
- _____さん (角館高校 A)
- _____さん (山形東高校 B)
- _____さん (本荘高校 B)
- _____さん (青森高校 A)
- _____さん (山形東高校 A)
- _____さん (安積高校 A)
- _____さん (岡山朝日高校)
- _____さん (山形東高校 A)
- _____さん (安積高校 B)
- _____さん (安積高校 A)
- _____さん (山形東高校 B)
- _____さん (岡山朝日高校)
- _____さん (本荘高校 B)

★ : 2回受賞



ベストディベーター賞

〈ベスト POI 賞〉

- _____さん (安積高校) ★
- _____さん (角館高校 A)
- _____さん (山形東高校 B)
- _____さん (本荘高校 A)
- _____さん (山形東高校 A)
- _____さん (青森高校 A)
- _____さん (山形東高校 B)
- _____さん (本荘高校 B)

★ : 2回受賞



ベスト POI 賞

参加者の声（アンケートより抜粋）

- チームメンバーと共に協力して勝ちを収めたり、アイデアを絞って必死に考え、それが賞の受賞に繋がったりして、とても楽しかった。あまり自信がなかったけど自分の主張や反論が届いた感じがして嬉しかったし、伝わるんだという自信に繋がりました。（山形東）
- 異なる県の人たちと、互いに英語でディベートすることが新鮮だった。本格的なディベートの雰囲気やコツを学べて良かったし、とても楽しかった。同じ内容でもいろんな視点で見ることができて興味深かった。（安積）
- 今回は企画していただきありがとうございました！貴重な実践の機会をいただき、新しい視点を他のディベーターの方々、ジャッジの方から得られることができました。改善点も見つけられたので次に繋がりたいです。（角館）
- 他の県の人と交流できて、ディベート中もディベート後も楽しめました。緊張した気持ちからただ楽しいという気持ちに変わっていき、とても楽しいディベートとなりました。もっと経験を積んで、話すだけじゃなく相手のことも考えた話の仕方も身につけたいです。ぜひまた参加したいと思います！（青森）
- POI がいつもより活発で、対戦相手のレベルも今まで以上で、なかなか苦戦したからこそ、とても楽しかったです。このような大会に出られたことを誇らしく思います。（本荘）
- 即興で英語を話すことには自信がなかったが、今回の試合、そして結果を通して自信に繋がり、今後も頑張ろうというモチベーションになった。今後もディベートを楽しんで続けていきたいと思う。（岡山朝日）
- ジャッジコメントが具体的、かつ教育的でありがたく思っております。自分の技量の向上のためにもかなり勉強させていただいております。引き続きどうぞよろしく願います。（教員）
- 生徒がいきいきしていました。素晴らしい機会で、生徒が成長することができて、最高でした。また、素晴らしいジャッジで今後の参考にしたいです。（教員）
- 県外の高校との試合は初めてでしたが、ディベートを通して交流できたのは貴重で楽しい経験となりました。一人ひとりに対しての丁寧なフィードバックもありがとうございました。いただいたアドバイスを次に活かしていきたいです。（教員）